



2023年1月13日

各位

会社名 株式会社 ロコンド
代表者名 代表取締役社長 田中 裕輔
(コード番号: 3558 東証グロース)
問合せ先 管理本部ディレクター 高志 成俊
(TEL. 03-5465-8022)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年1月13日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年5月18日に公表いたしました通期連結業績予想を下記の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正 (2022年3月1日～2023年2月28日)

	商品取扱高*1	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	25,500	13,000	900	870	610
今回修正予想 (B)	23,500	10,000	900	870	915
増減額 (B-A)	△2,000	△3,000	-	-	305
増減率 (%)	△7.8	△23.1	-	-	50.0
(参考) 前期実績 (2022年2月期)*2	-	-	-	-	-

※1 e-3PL (物流受託) を除く販売金額

※ 2022年2月期は単体決算であり、その実績につきましては以下の通りです。

	商品取扱高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
(参考) 前期実績 (2022年2月期)*2	21,217	9,875	883	852	604

2. 連結業績予想の修正の理由

取扱高が計画値を下回る見込みが高い要因は主に以下の2つになります。

(1) 秋冬シーズンにおきましては製造原価や輸送費の高騰、また一年間で1ドル110円から150円に下がるといった急激な円安を背景とし、ロコンドに出店しているブランド各社の販売価格を上げざるを得ない状況だったため需要が弱まりました。

(2) 連結子会社であるRBKJ株式会社は当第3四半期においてアディダスジャパン株式会社からReebokの日本国内事業の一部を譲り受けましたが、事業譲受前はReebokの大幅なセールが常態化されていました。そのため譲受後は利益率の改善およびブランドの改善を企図し、セール割引率をコントロールしたため取扱高が伸び悩みました (今年度予想取扱高は13億円 (従来予想25億円))。

売上高が計画値を下回る要因につきましても、上記の2つの要因がありますが、加えて以下の2つの影響に

よって、取扱高の計画修正度合いよりも更に下がる見込みが高くなりました。

(1) 当社における受託型商品の取扱高比率が上昇した事（買取商品の場合は消費者への販売価格が売上になるものの、受託型商品の場合はブランド各社から得る販売手数料のみを売上計上）

(2) 会計基準の変更によってポイント費用は広告費用計上ではなく売上から減算されることから予想を下回る見込みとなりました。

一方で、利益面につきましては、広告宣伝費用やその他費用をコントロールすることによって計画を上回る利益率を実現できているため、営業利益や経常利益に関しては計画値のまま、据え置きとなっております。

また当期純利益に関しては、当社の今後の業績の見通しを踏まえて繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産及び法人税等調整額の計上が見込めることから、当期純利益に関しましては計画値を大幅に上回る見込みとなっております。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上